

令和7年4月25日

コスモエコパワー株式会社
代表取締役社長 野地 雅禎 様

日本野鳥の会秋田県支部
支部長 佐々木 均 (公印省略)
秋田県横手市前郷一番町 1-21

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

日本雁を保護する会
会長 呉地 正行 (公印省略)
宮城県栗原市若柳川南南町 16

(仮称) 秋田由利本荘ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見

現在、縦覧中の「(仮称) 秋田由利本荘ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書」に対して鳥類及び生態系保全の立場から以下の意見を述べる。

記

事業実施想定区域(以下、計画地)は椿台鳥獣保護区、高尾山鳥獣保護区、道川鳥獣保護区に囲まれ、保安林を含む豊かな里山環境となっている。ここは鳥類のみならず生物全般にとって重要な生息地となっており、生物多様性に恵まれた地域である。本計画は1,525.4haにも及ぶ土地に高さ最大200メートルの巨大風車を25基も建設するというものであるため、開発によって野生生物の生息環境の破壊と悪化をもたらし、生物多様性を損なう行為であり、生態系保全のために容認することはできない。

従って、この計画の白紙撤回を求める。

以下にいくつかの点について具体的な意見を述べる。

・希少猛禽類について

クマタカ(国内希少野生動植物種、絶滅危惧ⅠB類)が生息していることは計画地近隣の秋田市、由利本荘市及び大仙市内において日本野鳥の会秋田県支部(以下県支部)会員によってしばしば目撃されている。また、過去には計画地に近い大仙市南外でクマタカの営巣・巣立ちが確認されており(注1)、現在も繁殖している可能性が高い。クマタカの飛翔範囲の広さ、目撃状況から考えて計画地でもクマタカが生息している可能性は濃厚であると考えられる。クマタカはその繁殖成功率の低さから絶滅が危惧されている鳥であり、クマタカの生息する可能性がある地域でこれ以上の環境悪化を伴う事業を行うべきではない。

また、サシバ(絶滅危惧Ⅱ類)については県支部会員が計画地外縁を通る県道44号線(雄和岩城線)において、繁殖期にその飛翔を複数回目撃しており、その状況から計画地は複数つがいの繁殖地になっている可能性がある。サシバは全国的に個体数が減少しており、2016年に環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類と指定され、営巣中心域及び高利用域の

減少や分断を極力回避することが求められている（サシバの保護の進め方 環境省自然環境局野生生物課 平成 25 年 12 月）。計画地はサシバの生息に好適な水田が入り組んだ里山環境であり、このような環境に風車を建設することは繁殖を阻害する大きな要因になると考えられ、計画を容認することはできない。

・タカ・ハヤブサ類の渡りについて

配慮書 3-36(p63)によれば、計画地の東側は風力発電における鳥類のセンシティブティマップ（陸域版）でノスリの秋の渡りの集結地として記載されているが、計画地はノスリのみならず多種のタカ・ハヤブサ類の重要な渡りルートとなっている。毎年秋季 9～10 月に県支部が県内複数地点で行っているタカの渡り観察（注 2）では、観測地点各地でミサゴ、ハチクマ（準絶滅危惧）、クマタカ、ツミ、ハイタカ（準絶滅危惧）、オオタカ（準絶滅危惧）、サシバ、ノスリ、チゴハヤブサ、ハヤブサ（国内希少野生動植物種、絶滅危惧Ⅱ類）などの渡りまたは飛翔が確認されているが、下記の例および図 1 に示したように計画地に近い観測地点の一つである雄和高尾山でもこれら複数種の猛禽類が高尾山の西側を通ることが確認されている。また、計画地南に位置する由利本荘市亀田において計画地の方向から飛来し南下していく多数のハチクマ・ノスリが県支部会員によって複数回確認されている。観測地点各地の飛翔状況から考えて、計画地はこれら猛禽類の渡りの重要経路となっていることは明らかである。これらのタカ・ハヤブサ類は風車のブレード回転域に入るような低空を飛翔することも目撃されている。また、渡りの時期は単に通過するだけでなく、中継地として短期間滞在し、採餌活動を行うことも多い。このような場所に風車を建設すればバードストライクの危険を増大させ、渡りの大きな阻害要因となる。

計画地近隣の観測例

・秋田市雄和高尾山

2015 年 9 月 1 日～9 月 29 日 サシバ 23、ハチクマ 561、ノスリ 8、ツミ 24、ハイタカ 56、チゴハヤブサ 7、クマタカ 5 回出現(2 個体)（支部 HP 掲載）

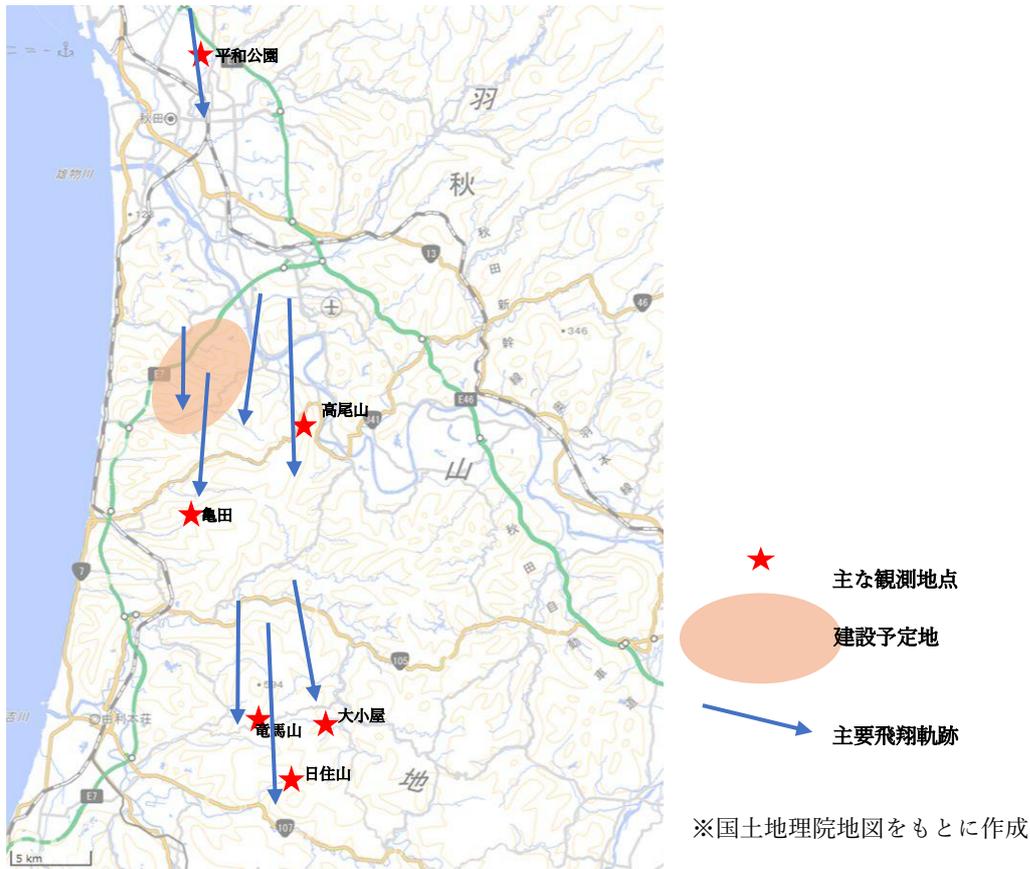
・由利本荘市岩城亀田亀田町

2018 年 9 月 17 日 ハチクマ 32 羽（未公表）

2018 年 10 月 12 日 ノスリ 120 羽（未公表）

2018 年 10 月 18 日 ノスリ 46 羽（未公表）

2023 年 9 月 16 日 サシバ 2、ハチクマ 41、ノスリ 1（支部 HP 記載）



鳥種・個体数については野鳥の会秋田県支部 HP タカの渡り速報を参照
<http://tantyoakita.la.coccan.jp/takanowatari-top.html>

図1 秋のタカの渡りルート
 秋田県支部による主な観測地点とこれまでに確認された主要な飛翔軌跡

・カモ科鳥類の渡りについて
 山階鳥類研究所・日本雁を保護する会等の GPS 標識調査により、シジュウカラガン（国内希少野生動植物種、絶滅危惧ⅠA類）、ハクガン（絶滅危惧ⅠA類）、ヒシクイ（天然記念物、亜種オオヒシクイ：準絶滅危惧、亜種ヒシクイ：絶滅危惧Ⅱ類）、マガン（天然記念物、準絶滅危惧）が越冬期および春の渡りの時期に計画地を通過することが確認されている（図 2-1、2-2、2-3）。また、県支部会員によって、国道 7 号線の岩城、及び下浜付近で陸から海上に出て飛ぶガン・ハクチョウ類の群がシーズン中何度も目撃されていることから、計画地はガン・ハクチョウ類の重要な移動ルートとなっていることは明らかである。

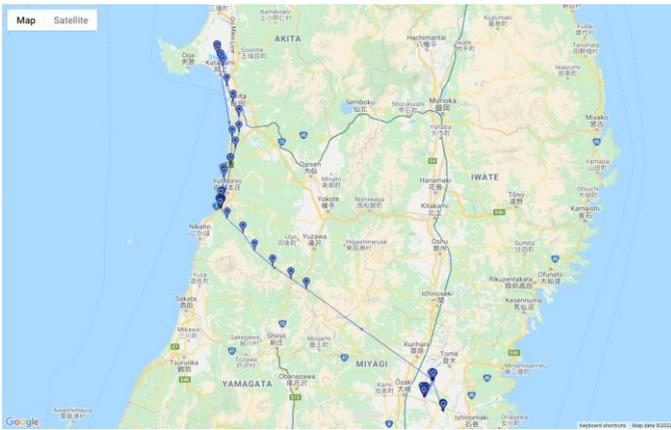


図 2-1 マガン 2022 年 2 月 17 日

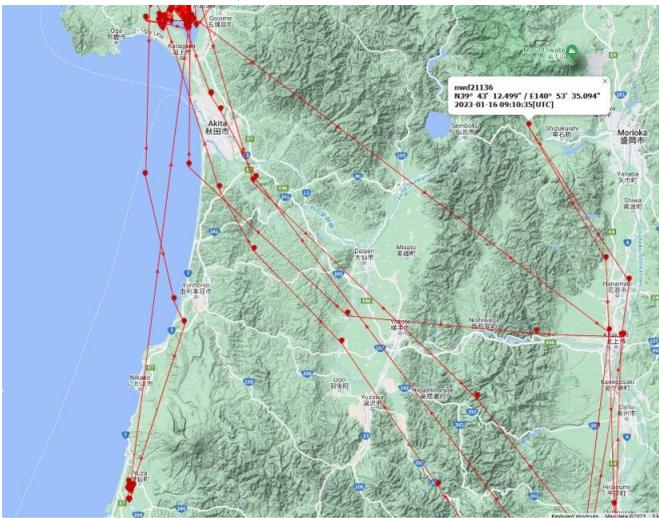


図 2-2 シジュウカラガン 2023 年 1 月 16 日

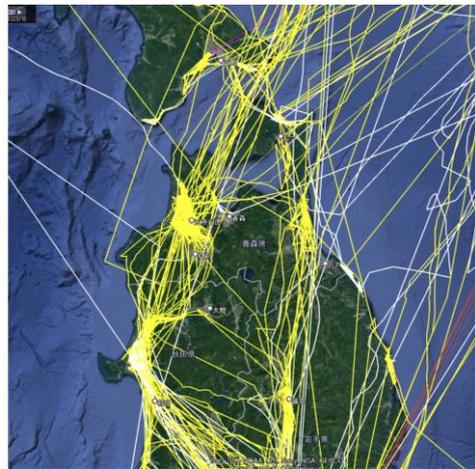


図 2-3 ガン類全般

(コクガン、マガン、カリガネ、ハクガン、シジュウカラガン) 2017 年～2022 年 東北地方拡大図

図 2-1 図 2-2 図 2-3 ガン類の GPS 調査例 (データ提供 山階鳥類研究所他 未発表)

・移動の障壁と累積的影響

渡りルートに風力発電が設置されると、移動の障壁が発生し風車を回避するために余分なエネルギーを消耗したり、バードストライクの危険性が高まるなど、様々な影響が生じる。配慮書図 2.2.8-1 事業実施想定区域の周囲における風力発電事業（p27）にも示されているように、計画地周辺には既に多数のウィンドファームが建設されており、現時点でも鳥類は風車群を避けて飛ぶことで大幅な飛翔ルートの変更が起きているが、貴社事業が実施されれば変更先となる回避ルートまで失われることになり、最悪の場合はこの一帯が渡りルートとして利用されなくなる恐れがある。累積的影響を考えると、これ以上はこの一帯に風車を建設するべきではない。

・工事による環境破壊について

計画地における風車設置予定地は現在、大きな道路がほとんどない山林である。地中深くまで掘削する必要がある風車本体の建設ヤード、取り付け道路、土砂災害防止のための防護壁や排水施設等の工作物の新たな建設は現況の生態系を劇的に変えてしまう。生物にとって重要な生息地であるこの区域の改変は生物多様性保護の観点から行うべきではない。

今回の意見書に記載されている意見等は概要としてまとめることなく、原文のまま掲載することを希望する。また、添付の図も掲載することを求める。

参考文献

注1) 小笠原嵩. 2004. 秋田の貴重猛禽類—その繁殖生態と営巣環境—. 秋田魁新報社.

注2) 日本野鳥の会秋田県支部 HP. tantyoakita.la.coocan.jp